

## 2021 年度 調査事業の概要

調査事業は、手賀沼流域フォーラム実行委員会からの委託により美しい手賀沼を愛する市民の連合会（以下、美手連）が毎年実施しています。2021 年度の調査事業は、以下の 4 項目について取り組みました。

### （1）手賀沼のハス・ヒメガマ・マコモ調査

#### ① 手賀沼の水を使ったハス栽培実験

手賀沼では、ハス群落が沿岸のヒメガマ・マコモを駆逐しながら拡大の一途をたどっていましたが、2020 年には大きく減衰し、沿岸のヨシ群落の中に数株が残るだけです。今、手賀沼で何が起きているのか。美手連で手賀沼の水を使ってハスの栽培実験を行ないました。

#### ② 手賀沼 水際線エリアのハス生育状況調査

今年度、手賀沼の水を使ってハスの栽培実験を行なった際に、合わせて実験地周辺の水際エリアから元ハス群落のあった沿岸でハスの生育状況調査を行いました。

#### ③ 手賀川・下手賀沼 水生植物分布調査

昨年度に手賀沼本体のヒメガマ・マコモ調査を実施し、我孫子市根戸新田地先、柏市片山新田地先などにあったマコモ群落が衰退し、下沼に多く分布していたヒメガマ群落も大規模に衰退しているのを確認しました。衰退の原因は、現時点で特定できていません。今年度は、沼本体以外の区域の分布状況を調査しました。調査エリアは手賀川、下手賀川、下手賀沼です。2019 年 8 月にいであ株式会社が分布調査した環境基図（水生植物分布状況）と照合しながら行いました。

### （2）手賀沼のナガエツルノゲイトウ・オオバナミズキンバイ調査

#### ●手賀沼における侵略的外来水生植物の大規模駆除後の再繁茂状況

ナガエツルノゲイトウ（以下、ナガエ）やオオバナミズキンバイ（以下、オオバナ）などの侵略的外来水生植物（特定外来生物）が、手賀沼とその流域河川で急速に繁殖しており、水質・生態系などへの影響や、農業・漁業被害などが懸念されることから、千葉県では計画的な駆除等を進めています。

千葉県が、2021 年 1 月から 2 月にかけて、手賀沼の大堀川河口部で侵略的外来水生植物の大規模駆除を実施しました。駆除後の再繁茂状況を、定点観察地点を設け継続調査した結果について、2022 年度千葉県生物学会 会員研究発表会で、美手連 顧問の小倉久子さんが発表しました。

### （3）大津川支流のオオカワヂシャ調査・駆除

大津川流域において特定外来生物のオオカワヂシャが主に生育している「逆井方面水路」と「上大津川上流部と流入する高南台方面水路」を 2 班に分かれて駆除作業を 3 月 20 日に実施しました。昨年 3 月に実施した成果が出ており、両エリアとも駆除量が大幅に減少しました。

事前に、美手連構成団体の大津川をきれいにする会と協力して、2 月 2 日、3 日、13 日に生育分布調査を行い、状況を把握してから、駆除作業を行いました。

### （4）手賀沼の魚類・貝類調査

毎年、美手連構成団体の手賀沼水生生物研究会が担当しています。2021 年度は、9 月 12 日にモンドリによる定量調査とガサガサによる定性調査を並行して行いました。昨年までのハス大繁茂帯の消失とその下流域の岩井新田付近のガマ帯の消失による底質の悪化が昨年より改善したが、それでも生き物の生息には厳しい状況でした。